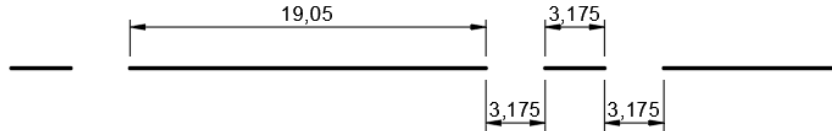


線種の異尺度対応

線種には異尺度対応機能はありません。ですが、設定により異尺度対応オブジェクトと同じようなことが可能です。
例として、「acad.lin」からロード可能な「CENTER2」について考えたいと思います。

■ 線種「CENTER2」の詳細



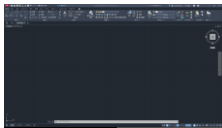
注釈尺度「1:1」のモデル空間にて「CENTER2」は、上図のように「19.05 の実線－3.175 の空白－3.175 の実線－3.175 の空白」の繰り返しで構成される「一点鎖線」です。

※ 作図単位がミリメートルであることが前提です。

■ レイアウト空間にてビューポート尺度にかかわらずこの寸法を維持するには

レイアウト空間にてこの「19.05－3.175－3.175－3.175」の長さをビューポート尺度にかかわらず一定に保つには、システム変数「PSLTSCALE」を「1」に設定するか、または、「線種管理」ダイアグラムにて「尺度設定にペーパー空間の単位を使用」にチェックを入れます。（チェックを入れると「PSLTSCALE」が「1」になります。）

動画で見てみましょう



クリック
動画が再生されます

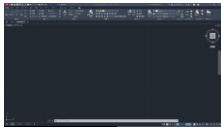
- ① モデル空間に 画層「0」の円と、画層「画層1：線種=CENTER2」の線分
- ② レイアウト空間に 尺度が「1:10」と「1:20」の2つのビューポート
- ③ ビューポート外に画層1の線分を描画
- ④ CENTER2 の長いほうの線分の長さを確認（約19.05）
- ⑤ 2つのビューポート内の画層1線分の線種「CENTER2」を確認。（縮小されている）
- ⑥ 「線種管理」ダイアグラムにて「尺度設定にペーパー空間の単位を使用」にチェックを入れる
- ⑦ 再作図をすることで、尺度が自動調整されることを確認

※ 再作図が必要なことに注意

■ モデル空間にて、前記のレイアウト空間の表示と同じ線種パターンに自動尺度調整するには

前記の設定をした時、モデル空間の線種をレイアウト空間ビューポート内の見え方と同じにするには、システム変数「MSLTSCALE」を「1」に設定し、注釈尺度をレイアウト空間ビューポート尺度と同じ値にします。

動画で見てみましょう



クリック
動画が再生されます

■ PSLTSCALE と MSLTSCALE のデフォルト値は？

デフォルトは、以下の通りです。

PSLTSCALE = 1

MSLTSCALE = 1

■ PSLTSCALE と MSLTSCALE の記録先は？

両方とも、図面ファイルに記録されます。

■ 必ずデフォルト値にて図面を編集するには？

他人が作成したテンプレートや図面を用いて図面作成を行う場合、PSLTSCALE、及び、MSLTSCALE は、図面に記録されている値が引き継がれます。

これを、必ず、デフォルト値にしたい場合は、図面が開かれるタイミングで実行されるLISPファイル **acaddoc.lsp** に、以下の文を入れておきます。

```
(set var "PSLTSCALE" 1)  
(set var "MSLTSCALE" 1)
```